

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570500369		
法人名	株式会社 ナガオカ		
事業所名	グループホーム 悠愛		
所在地	滋賀県東近江市五個荘竜田町528-4		
自己評価作成日	平成26年9月29日	評価結果市町村受理日	平成26年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成26年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立と尊厳を基本とし、利用者様が「第2の我が家」として自由に安心して自分らしく生活していただけるよう支援し、「筋力低下を防止し、自分で出来る事は自分でしよう」を目標にしています。午前・午後ラジオ体操と基礎体力作りを行っていただいています。また、安心して穏やかに過ごしていただけるような環境づくりと、利用者様の体調・状態に合わせて生活していただける様に日々配慮させていただいています。何より、利用者様が笑顔で楽しく生活していただけるように、日々よりよい支援が提供できるように職員一同努めさせていただいています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くには近江商人の豪邸、神社・仏閣や小学校・支所等の公共施設が有り、静かな住宅地に建つ事業所である。建物の屋根は太陽電池で覆われ、駐車スペースと和風庭園が有り、事業所の行事や避難場所として使用している。管理者は地域出身で、職員もほとんどが地域の住民であって地域とは深い結びつきがあり、防災や徘徊時の協力体制は出来ている。居間は大きな窓と天窓からの光で明るく、快適な空間となっている。入居者は日に2回、立位又は車椅子でラジオ体操を行い、隔日の入浴等による身体機能の維持に努め、介助なしでの食事摂取や自力でトイレへ行くなど成果を上げている。職員の明るさときめ細かな介助により、100才の利用者を始め全員が明るく、安心して「気兼ねなく暮らせる第二の我が家」と思って楽しく共同生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症であっても安心して生活出来る様に地域の方の理解を深めると共に「元気に自分らしく」生活していただけるように日々、支援に取り組んでいる。	地域住民との交流の下、「気兼ねなく暮らせる第二の我が家」を理念として玄関にも掲示している。利用者が安心して暮らせるよう全員で話し合い、理解を深め笑顔を支えない介護に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	可能な限り地域の行事に参加・見学していたる様にに取り組んでいる。	地域の消防訓練や老人の避難訓練用に事業所を提供したり、地域主催の認知症徘徊発見訓練に参加している。庭木剪定、獅子舞、落語等ボランティアの事業所訪問もあるが、日常的な地域全般との交流は不十分である。	積極的に情報発信に努め、日常的に交流が深まることを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて当ホームが、協力出来る事は行なわせていただく様にしている。地域の認知症徘徊高齢者早期発見保護訓練に参加・協力している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、実施している。利用者の現状報告、施設状況を報告し、ご意見をいただいている。	2か月に一度開催し、活動内容の報告、行事や課題について討議し、外部評価結果の報告もしている。会議内容は職員に報告し、運営に反映するようにしている。家族にも議事録は公開している。	運営推進会議で外部評価結果での要望事項や目標達成計画を説明し、モニター役を担ってもらえる運営を図って欲しい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の認定調査等で関わりを持っている。運営推進会議において協力体制を整えている。また、疑問な点等があれば連絡し相談している。	支所の福祉グループの職員が運営推進会議に出席している。近いこともあり日頃から頻繁に交流している。市の福祉課へは法改正や職員の勤務形態等について直接相談に赴いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者個人に対して身体拘束に繋がる衣類・器具は一切使用していません。テラスや居室の窓に関しては常時開放している。	スロープもあるが、玄関前は階段になっているので、試行錯誤の結果、安全確保のため玄関はオートロックにしている点を家族には説明して理解を得ている。拘束行為についてはスタッフ会議等日頃から注意し、拘束の無いケアに努めている。	見守りを中心とした安全対策を再度検討し施錠しない介護を期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のケアの中で身体的・精神的虐待がないかを各職員が常に気をつけて支援をさせていただいている。発生時に早急にスタッフ会議をし協議するようにしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている利用者がおられる。今後も必要に応じて、勉強会を実施していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、解り易く説明し、疑問等には速やかに説明し、理解及び納得していただける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等を利用し、相談や苦情がないか、話ができる時間を設けている。当ホーム以外にも相談窓口がある事も情報提供させていただいている。	今年度は家族会が開催されなかったが、家族の来訪時に意見や希望を聞くよう努めている。その結果、エアコンだけでは不足の場合、温風ヒーターを使用したり、寒がりの利用者には更に膝かけ毛布を使用するようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常のケアに関しては、スタッフ会議や日常的に話し合っている。個別的な相談については、個別に時間を設け、必要であれば本社に報告している。	毎月のスタッフ会議はケア会議を兼ねている。職員は席上意見や提案を出し合い、プランターの設置や菜園の手入れ等を実施している。個人面談も随時行い、職務上の提案他勤務時間や休日調整をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者より勤務状況等に関しては、上司に報告している。職員からの質問・疑問には上司に報告後、回答を職員に伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修についてはスタッフ会議にて適時行なっている。外部の研修については、研修案内などを回覧し個人に任せている。新入社員については、管理者や職員が指導にあたらせていただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加する事により、同業者の方々と情報交換などを行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で本人からの聞き取りで環境が変わることへの不安を少しでも取り除けるように話を聴かせてもらっている。本人が話せない場合は家族から話を聞かせてもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に困っていた事や入居後に苑に望む事などを時間をかけて話を聴かせてもらっている。入居後も家族に協力してもらえるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活様式を出来るだけ継続して欲しいので出来るだけ多くの情報を得るように心がけている。家族の他にも老健やデイサービス・在宅のケアマネなどから情報を提供してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を見極め本人が自力で出来る所はしてもらっている。また手伝ってもらえる事はお願している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に協力してもらえるところはお願いしている。緊急時をのぞき受診は家族にお願いしている。外出を好まれる入居者は外食や時には外泊などの時間を共に過ごしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後に家族や親戚以外の面会は殆どないが入居前に利用していたデイサービスの職員と在宅のケアマネが尋ねてきた事があった。	フェイスシートや日常の会話から馴染みの人や場所を把握し、交流が途切れないよう支援している。神社への参拝や知人の来訪もあり、家族の協力を得て正月時の帰宅や法事、墓参りに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルが起きない様に食事席を配慮したりしている。入居者皆で昔の話をしたり歌を唄ったり回想の場面をもうけるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了してから相談や支援はしていないが特養など他の施設から相談があれば支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から困っている事がないか話を聴いている。利用者から話しに来られる場合もあり十分に話を傾聴している。	フェイスシートは東近江市の様式を使用している。入居後は本人との会話や態度、更に家族との会話より得た情報を別紙に記載し職員間で共有しケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	安心して生活して頂ける様に入居前にアセスメントを行っているが入居後も家族様と連絡を取り合いながら住み易い環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの低下や健康状態が良くない等毎日の生活の中で把握出来るところは注意している。ADLが低下した場合はアセスメント行いケアプランの見直しをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議で意見を聴いたり「必要と思われる支援内容」の書面にて職員全員に意見を書いてもらいその後、皆でケアのあり方を話し合っている。事故防止のためにも無理な介助はしないように伝えている。	モニタリング結果を全員出席のスタッフ会議で相談しチェックしている。3カ月毎の見直し前には家族の来訪時または電話にて希望を聞き、策定後は面談の上家族に説明し、同意の署名捺印を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録や日報で情報を共有している。職員の気づきがケアプランに反映出来るようにしたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族がいる利用者に関しては出来る限り話し合いの時間を作りどの様に対応すればよいか充分話し合っている。成年後見や社協・市などに相談する事もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の高齢化もあり、心身の力を発揮していただくのが難しくなっており、地域資源の活用には至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族が希望する主治医を受診してもらっている。日々の様子は受診記録で主治医に情報を提供している。場合によっては職員が家族に同行し主治医から意見をきかせてもらう時もある。	症状の関係上3名は家族に説明し同意を得て協力医に切替えて貰っている。緊急、突発時以外の受診には家族の付き添いをお願いし、医師の意見を記入してもらい医療ファイルにし、家族と事業所で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	単独のグループホームであるので看護職がいない。訪問看護も取り入れていないので医療で問題が起きた場合は主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院に情報を提供している。地域連携室の相談員との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについての研修へ参加、協力医に往診をしていただく等をしているが、ターミナルケアについては取り組めていない。	終末期の対応は職員、家族とも認識しているが、現在事業所として対応は困難である旨を説明し理解を得ている。重度化した時の対応として早い目に福祉施設や病院等申し込むよう助言している。	事業所の方針を早急に文書化し、本人・家族と充分話し合いを行い、合意文書を交わして欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は実施していないが、初期対応については適時説明している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難・通報・消火の総合訓練は年2回実施している。利用者1人1人に個別の誘導方法を考えている。地域の防災訓練に参加・協力している。	総合防災訓練を年2回実施し、内1回は夜間を想定している。職員は地域の防災訓練にも参加している。オール電化であるが今年度末スプリンクラー設置を申請した。各種設備点検、食料等の備蓄もしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁時等には、他の利用者様に分からない様に配慮した声掛けにてケアをさせていただいている。また、常に穏やかな口調での言葉かけを心がけ支援している。	入居者夫々の性格を熟知して日頃の介護に努めている。職員は入居者に接する態度や言葉かけに注意し、誇りやプライバシーを損ねないよう留意している。個人情報関連の書類は事務所の書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話を傾聴し、少しでも望まれる事が叶うように支援している。また、家族にも協力していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者には、ご自身の生活のリズムで無理なく過ごしていただいている。また、利用者の状態に応じての見守りや支援も行わせていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動散髪を利用している。また、利用者本人の希望を入れながら服装等にも気配りをさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話から利用者の好みを聞き出している。また、食事前には食卓拭き等の準備を手伝っていただく様に支援している。	通常はチルド食を利用している。業者は季節毎の記念食を準備してくれているが、誕生祝いや行事食には入居者の希望を聞いて作る事も有る。準備・後片づけに参加する入居者もいて、職員と一緒に楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量は記録し気にかけている。また、水分や食事をとられない方には、介助させていただいたり、好まれる物を提供する等し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人に義歯は洗浄していただいている。また、出来ない方には職員が洗浄させていただいている。ポリデント使用時には、職員が洗浄している。歯科受診が必要な方には、訪問歯科を利用していただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを記録し把握するようにし、個々にトイレの声掛けや誘導をさせていただいている。	排泄パターンを把握し、一人ひとりにさりげなく声かけしてトイレでの排泄の自立支援をしている。多数はパッド付のリハビリパンツであるが職員の早目の誘導によって失禁は減少している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方に関しては主治医に相談し、整腸剤を処方していただいている。状態に合わせて主治医に相談し、整腸剤の量を調節していただいている。また、毎日のラジオ体操の実施。朝食時には牛乳を飲んでいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日で入浴していただいている。希望があれば毎日の入浴にも対応している。利用者の状態によっては入浴を見合わせてもらっている。	隔日で入浴をしている。車椅子利用者はシャワーと足湯とし、2人介助している。入浴時間は希望に沿って行っている。希望を聞いて柚子湯や入浴剤を使って入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後には、2時間程度居室にて休んでいただく時間を設けている。夜間は、室内温度や照明の明るさを調節するように配慮させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬される薬については、目的・作用・副作用を把握している。また、誤薬がないように薬のセット時・服薬時の確認を徹底している。最後まで服薬されたかも確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて、家事等のお手伝いをしていただいている。レクリエーション等を行なう中で個々の能力に合わせて楽しんでもいただける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や日光浴、施設テラスでのお茶会等をさせていただいている。また、本人の希望があればご家族に連絡し協力していただいている。	テラスでのお茶会や近隣への散歩に出かけている。職員の余裕があまり無い点や移送手段の関係で外出の機会が少ない。入居者から外出の希望があれば家族の協力をお願いしている。	季節感、解放感を味わってもらう為にも外出出来る様、家族や地域の人々の協力を得るなど事業所として対策を講ずる事を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使用能力の有無に関わらず、当ホームの金庫にて保管させていただいている。本人の希望や必要な物があれば、家族に連絡し購入させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば常時、対応させていただいている。また、年賀状を家族の方に出していただける様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度計を参考に空調を調整し快適に生活していただける様に配慮している。毎月、利用者様とカレンダーを作成し、季節の移り変わりを感じていただいている。	天窓と広い開口の窓で室内は明るく清潔である。台所から居間や廊下が見渡せ、壁には入居者の写真付プロフィールや職員と共同で作った作品を飾って居心地良くしている。浴室、トイレは清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の性格を理解し、気の合う方が隣の席に座れるように配慮している。また、ソファにて寛いでいただける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の身体の状態に合わせた家具等をご家族と相談の上、使用していただいている。また、利用者が使いやすいように考えて、家具を設置している。	居室は畳敷きで、ふとんやベッド等を持ち込み使用している。窓からの見晴らしも良い。備え付けのクローゼットがあり、写真、タンス、鏡台、テレビ、仏壇等を持ち込み、入居者は居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に名札を設置し、出来るだけ足元に物がないように配慮している。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化について事業所としての方針を明確にし、ご本人、家族と話し合い文書にて合意をいただく。	事業所としての方針を本人様・家族様に理解を得	重度化に関して事業所の今後の方針を決める。	12ヶ月
2	2	日常的な地域との交流が不十分である。	地域と日常的に関わりが持てるような環境作りを行う。	利用者様が外出等で地域と交流が持てる機会を作る。また、地域の方が来苑していただきやすい環境を作る。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。